

企業短期経済観測調査（道北*地域分）
（調査対象企業：道北*地域 50社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内

〔 回答社数構成比 % ポイント 〕
〔 () 内は前回調査時予測 〕

（判断D. I.）

	2009/12月	2010/3月	6月	9月	12月	2011/3月	2011/6月までの予測
業況判断 ＜ 良 い － 悪 い ＞	▲46	▲27	▲25	▲23	▲29	(▲41) ▲34	▲42
うち製造業	▲36	▲9	0	9	▲30	(▲20) ▲20	▲30
非製造業	▲47	▲32	▲30	▲32	▲29	(▲46) ▲38	▲45
国内での製商品・サービス需給 ＜ 需要超過 － 供給超過 ＞	▲49	▲42	▲32	▲37	▲43	(▲49) ▲45	▲45
製商品在庫水準 ＜ 過大 － 不足 ＞	4	7	▲2	12	0	(—) 3	—
生産・営業用設備 ＜ 過剰 － 不足 ＞	8	6	6	6	▲2	(6) 19	13
雇用人員 ＜ 過剰 － 不足 ＞	▲6	0	4	4	2	(12) 23	13
資金繰り ＜ 楽である － 苦しい ＞	▲24	▲24	▲10	▲12	▲12	(—) ▲21	—
金融機関の貸出態度 ＜ 緩い － 厳しい ＞	▲18	▲13	▲16	▲6	▲6	(—) ▲4	—
借入金利水準 ＜ 上昇 － 低下 ＞	2	▲6	2	▲16	▲13	(0) ▲2	7
販売価格 ＜ 上昇 － 下落 ＞	▲43	▲31	▲34	▲38	▲34	(▲32) ▲33	▲31
仕入価格 ＜ 上昇 － 下落 ＞	15	11	9	13	12	(24) 25	41

（注）「製商品在庫水準判断」および「資金繰り判断」、「金融機関の貸出態度判断」の「2011/6月までの予測」は調査対象外。

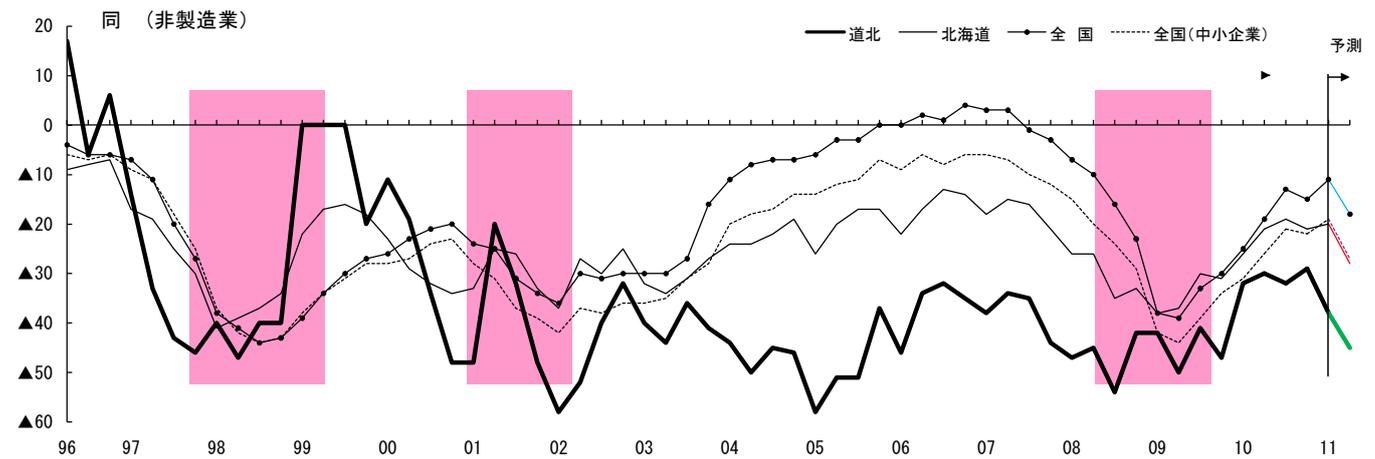
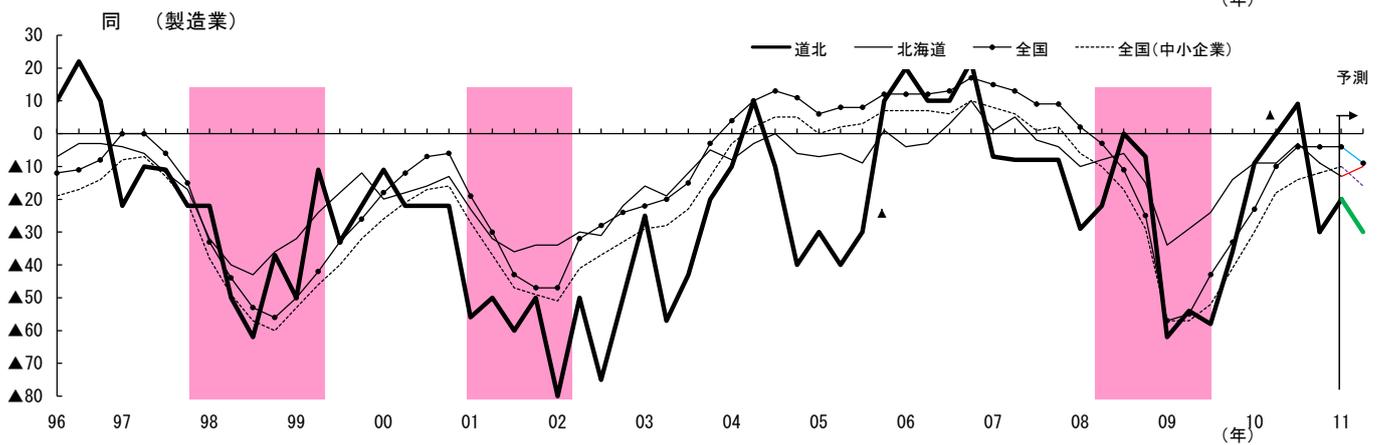
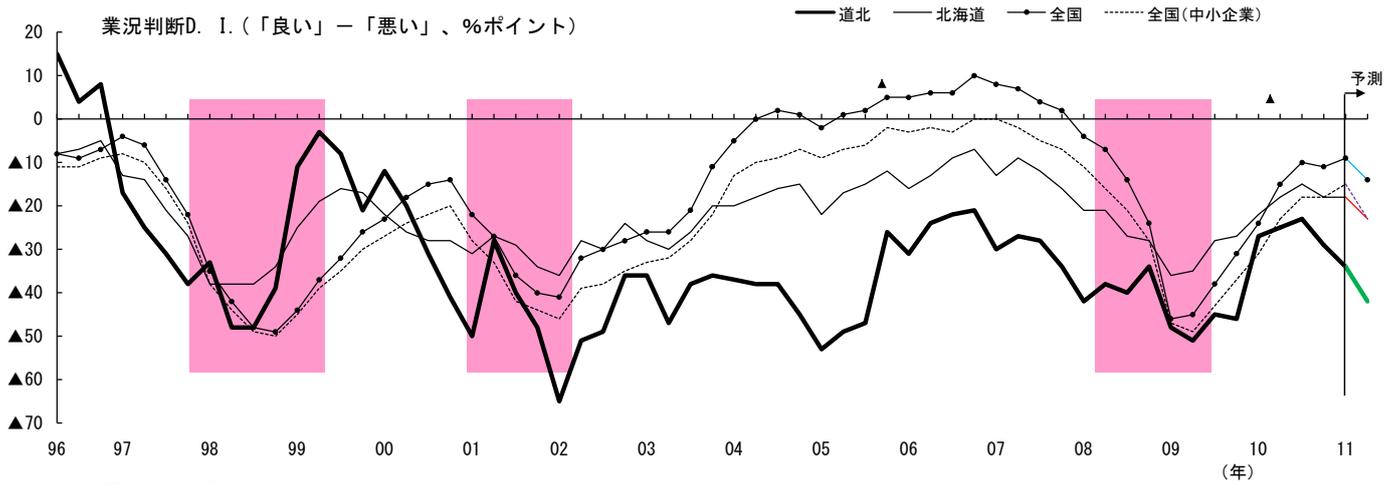
（事業計画）

〔 全産業、前年度比 %、 〕
〔 < > 内は前回調査比修正率 % 〕

	2010年度計画			2011年度計画		
		上期	下期		上期	下期
売上高	+0.2 < -0.2 >	+4.3 < -0.3 >	▲ 3.4 < - 0.2 >	▲ 0.8	▲1.4	▲0.3
経常利益	▲ 42.8 < -27.6 >	+82.1 < +6.1 >	赤字転化 < 赤字転化 >	88.0	▲13.1	黒字転化
当期純利益	▲ 37.2 < -49.0 >	2.9倍 < +9.5 >	赤字転化 < 赤字転化 >	2.3倍	▲30.6	黒字転化
設備投資額	+11.1 < -1.4 >	19.6 < +27.5 >	3.9 < -19.0 >	▲18.6	▲6.7	▲30.0

（注）調査対象企業等見直し後の新ベース。

2011年3月短観・調査結果



(注) 道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
 2009/9月以前は調査対象企業等見直し前の旧ベース、2009/12月以降は見直し後の新ベース。

■ シャドーは景気後退期（内閣府調べ）

2011年3月短観のポイント

- 回答期間：2011年2月24日～3月31日。
- 道北地域50社が対象（有効回答社数50社）。
- 今回短観調査結果では、回答期間の関係から、東北地方太平洋沖地震に伴う影響を織り込んだ回答は一部となっている。

（判断D. I.）

- 業況判断D. I. は△34%ポイントと前回（12月）調査（△29%ポイント）比5%ポイントの悪化。足もと好転先が5社あった一方で、悪化先が8社。好転した先の背景として、「足もとの在庫調整進捗」（木材・木製品）、「業種転換の効果」（建設）など。一方、悪化した先の背景としては、「競争激化により受注が困難化」（リース、建設）、「受注減および採算悪化」（建設）、「仕入れ価格上昇、販価下落による採算悪化」（卸売）、「観光客の減少」（飲食店・宿泊）など。悪化先では、公共事業の減少や需要不足による影響がみられた。
- 製造業では10%ポイント改善し△20%ポイントとなった。一方、非製造業では9%ポイント悪化して△38%ポイントとなった。
- 全国をみると、大企業製造業では+6%ポイントと前回調査比1%ポイントの改善。中小企業全産業では△15%ポイントと前回調査比3%ポイントの改善。中小企業製造業では△10%ポイントと前回調査比2%ポイントの改善、同非製造業では△19%ポイントと前回調査比3%ポイントの改善。地震前までの輸出が増加基調に復する動き等を反映したものとみられるが、地震発生により足もとの状況は変化しているものと考えられる。
- 全道をみると、全産業では△18%ポイントと前回調査比横這い。製造業では4%ポイント悪化し△13%ポイントとなった一方、非製造業では1%ポイント改善し△20%ポイントとなった。
- 道北地域における3月の業況判断D. I.（△34%ポイント）は、前回調査における3月までの予測（△41%ポイント）との対比では改善。先行き6月までの見通しは△42%ポイントと悪化を見込んでいる。業種別では製造業（△20%ポイント→△30%ポイント）が悪化を見込むほか、非製造業（△38%ポイント→△45%ポイント）も悪化を見込んでいる。先行き好転先の主なコメントとしては、「中国における在庫調整進捗に伴う受注増」（電機機械）、「小型案件を取り込むことによる売上増」（建設）など。先行き悪化先の主なコメントとしては、「公共工事の減少懸念」（建設）をあげる先が多いが（6社）、「震災による東北地方向け売上減」（飲食店・宿泊）、「震災による資材入荷難に伴う工事着工の遅れ」（建設）など、東北地方太平洋沖地震の影響もみられている。

- 需給環境は悪化。先行きは横這いを見込む。
- 在庫水準はゼロから再び若干の過大超に。
- 生産・営業用設備は若干の不足超から過剰超に。
- 雇用人員判断は過剰超幅が拡大。
- 資金繰りは、苦しい超が拡大。金融機関の貸出態度は、若干の厳しい超でほぼ横ばい。この間、借入金利水準は若干の低下超。先行きの借入金利は上昇を見込んでいる。
- 仕入価格は上昇超。先行き更なる上昇を見込んでいる。一方、販売価格は大幅な下落超が続いており、先行きも横ばい圏内。

(事業計画)

- 2010 年度の売上高は、前回調査比わずかに下方修正となり、前年度比 0.2%の増加の見込み。主な理由としては、「建材の在庫調整による出荷増」(木材・木製品)、「需要減に伴う売上減」(卸売)など。2011 年度計画をみると、前年同期比で上期△1.4%、下期△0.3%減少する結果、通期で△0.8%減少する計画である。
- 2010 年度の経常利益は、宿泊・サービスの赤字転化を主因に前回調査比大幅な下方修正(△27.6%)となり、△42.8%の減益を見込んでいる。当期純利益も△37.2%の減益。2011 年度計画をみると、前年度比 2.3 倍を見込んでいる。主な理由としては、リストラ進捗、在庫調整進捗、景気回復期待など。
- 2010 年度の設備投資額は、前回調査比若干(△1.4%)下方修正され、11.1%の増加となる見込み。2011 年度は前年度比△18.6%を見込んでいる(これは、過去 5 年間の当初設備投資計画前年比中で 2 番目に高い数字。ちなみに、この段階では計画未策定先が少なくないため、当初計画前年比は低めに出る傾向)。

以 上